広報とうやこ
発行日　令和6年1月10日
通巻　第214号

消防団でまちを守って60年余「人との出会いがあればこそ」

profile
昭和19年10月31日生まれ。旧虻田町出身。虻2区在住。79歳。

Spotlight スポットライト

道消防協会栄光章　洞爺湖消防団前団長

寺島　勉 さん

昭和34年3月11日未明、商店や民家が立ち並ぶ虻田町の一角から突如、火の手が上がりました。東からの強風にあおられて火勢を増すと瞬く間に辺りを飲み込み、47戸が焼失する大火に。当時、中学生だった寺島さんは現場にほど近い浜辺にいました。視線の先には、真冬の夜の海に凍えながらも必死に海水をくみ上げる消防団員の姿。「自分も力になりたい」と思ったことが、それから60年以上に渡って消防団員としてまちを守る原点となりました。

漁師の家に生まれた寺島さんは、家業を手伝いながら高校へ。虻田消防団に入団してからは、いつ招集されてもいいように支給された帽子を携えて通学していました。「そのころは団に入れば一人前と言われた時代。学ランを着たまま出動することもありました。『守ってくれ』と言われたら意気に感じたものでした」と懐かしそうに笑います。

卒業後は漁師と二足のわらじをはき続ける日々。平成19年には洞爺湖消防団の団長を拝命しました。第一線で活動を続けられたのは、妻の幹子さんの支えがあったからこそ。しばしば団員を自宅に招き、日ごろの労をねぎらうのが団長の慣例でしたが、団の活動に理解が深かった幹子さんの献身もあり、仲間との結束を保つことができました。

平成26年から令和2年にかけては道消防協会胆振地方支部の支部長にも就任。西・東胆振の連携が課題とされていましたが、互いの意識改革にも心を砕き、融和を果たしました。

昨年9月に勇退し、胆振地方支部では2人目となる道消防協会栄光章を受章。長く功労を積んだ人にしか贈られない同章の受章を喜びます。「いろんな人との出会いがありました。消防団の苦労は全然ありませんでした」。晴れやかな笑顔に、消防人として歩んだ61年3カ月がにじんでいました。

今月のワンショット

洞爺駅イルミネーション

東奔西走

新年あけましておめでとうございます。2024年は、60周年を迎える箱根町との姉妹提携、50回目の節目を数える洞爺湖マラソンなど歴史的な行事が予定されています。それぞれの軌跡と今後を皆さんに伝えていきたいと思います。（D．Y）

新年あけましておめでとうございます。昨年もイベントが復活し始めたりとにぎわいが戻りつつありましたが、2024年はそれを超える盛り上がりを見れるのではと、今から期待しています。今年も良い年になるよう、努力していきます。（Y. A）

■編集・発行／洞爺湖町総務部企画財政課　広報統計係　〒049-5692 洞爺湖町栄町58番地
☎0142-74-3004　FAX0142-74-2121　ホームページアドレス http://www.town.toyako.hokkaido.jp/　■印刷　文栄堂印刷